



横浜市栄区セーフコミュニティ 再認証式典



2018年10月6日(土)13時～16時
栄公会堂講堂

セーフコミュニティ合意書

INTERNATIONAL
SAFE
COMMUNITIES



国際セーフコミュニティ認証センター 及び 横浜市栄区 は

外傷管理プログラム(けが予防を通じた安全なまちづくり)を継続的に実施することについて合意する。

この取組は、横浜市栄区全域のすべての年齢の住民、あらゆる環境や状況を対象とするものである。私たちは、この取組を記録・評価するとともに、自らの経験を積極的に国内外に普及させていくことについてここに合意する。

横浜市栄区
2018年10月6日

小山内 いづ美
横浜市栄区長

デイル ハンソン
国際セーフコミュニティ認証センター センター長
認証審査員(正)

磯崎 保和
栄区連合町内会長

チョ ジュンピル
認証審査員(副)

宮田 孝
栄警察署長

白石 陽子
日本セーフコミュニティ推進機構 代表理事

味上 篤
栄消防署長

会場を装飾しているガーベラは、栄区の花「キク」科の花で、花言葉は「希望」「常に前進」です。
栄区のより安全・安心なまちづくりのために、希望を持って前進していきましょう！
なお、ガーベラはお帰りの際来場者の皆さまにお配りします。





Program

- 開 会
- 再認証あいさつ 栄区長 小山内 いづ美
- 合意書署名
- 認証盾・旗の授与
- 審査員挨拶 チョ ジュンピル
- 祝 辞
- セーフコミュニティさかえ絵画コンクール表彰式
- 分科会の活動紹介及び感謝状贈呈



再認証記念ミニコンサート

再認証を記念した、次代を担う小学生と栄フロイデ・コールによる栄区賛歌の合同合唱♪
栄区賛歌は、「区民がみんなで大合唱していける歌を」という声を受けて、
1988年に詞と曲を募集してつくられました。栄区の情景を思い浮かべながらお聞きください♪

♪ 曲目

西本郷小学校 ハッピーレインボーコーラス

- 世界が一つになるまで
- みんながみんな英雄 ほか

混声合唱団 栄フロイデ・コール

- 混声合唱組曲「筑後川」より
- みなかみ
 - ダムにて
 - 河口

栄区賛歌の 合同合唱♪

- 川のある町で
- わが町に寄す
- 大地に耳を

♪ 出演者紹介

西本郷小学校 ハッピーレインボーコーラス

ハッピーコーラスは、西本郷小学校 PTA のメンバーらによる合唱団。「聴いてハッピー! 歌ってハッピー!」な合唱を目指して活動しており、昨年 10 周年を迎えました。レインボーコーラスは、3 年生以上の合唱が好きな子どもたちで結成されています。ハッピーとレインボーが合同で歌うことで、大きな喜びを感じています。今では、「子どもと保護者が一緒に歌う学校」として、栄区内でも広く知られるようになりました。指揮・指導は高村明子、ピアノ伴奏は三浦邦子。



混声合唱団 栄フロイデ・コール

第 9 回栄「第九」演奏会(2015 年 2 月 1 日みなとみらいホール)の合唱指導者、富澤裕氏から引き続き指導を受けたい、との要望で栄区音楽協会特別事業「コーラス塾」として 2015 年 7 月に立ち上げた合唱団。栄区制 30 周年のクロージングイベント「感謝合唱祭・そしてつながる未来のさかえ」では合同合唱曲「COSMOS(富澤裕編曲)」と「栄区賛歌」を子ども、現役、シニアの 3 世代が歌い上げ会場の皆さまに感動を与えた。2017 年 4 月から音楽協会加盟団体として活動。現在団員 70 名、正指揮・富澤裕、副指揮・辻端幹彦、浅野美帆子の 3 氏に指導を受けている。2019 年 5 月 12 日(日) 第 1 回演奏会を開催予定。本日の指揮は浅野美帆子。





栄区セーフコミュニティ
推進協議会 会長

横浜市栄区長
小山内 いづ美

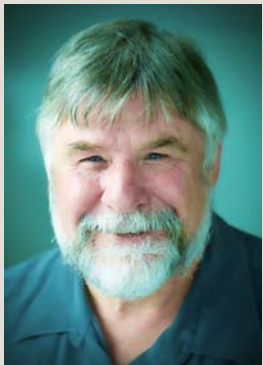
このたび、栄区は「セーフコミュニティ」の再認証を得て、新たな5年間をスタートします。初めて認証を取得した2013年から5年間という長きにわたり、熱心に取り組まれてきた地域の皆さまや関係諸機関・団体の皆さまに心から感謝申し上げます。今後さらに安心して安全に住み続けられるまちを目指し、顔が見え、心の通い合う関係づくりを重ねながら、事故やけがの減少、防災、防犯対策等をさらに推進してまいります。

セーフコミュニティの活動分野は、栄区に7つある地区連合がそれぞれ策定している地域福祉保健計画の地区別計画とも密接な関わりがあり、相互に連携した取組により、地域課題の解決に向けて、相乗的な効果を生み出してきました。セーフコミュニティの分科会と各地区は、まさに、縦糸と横糸の関係と言えます。セーフコミュニティと地区別計画の両方の取組を総合的に俯瞰した形で、皆様に分かりやすくお示しできると、さらに区民の皆さまの充足感が高められ、まちの魅力向上に寄与できると思いますので、これからも皆さまとともにセーフコミュニティ活動を推進してまいります。

引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2018年10月6日

小山内いづ美



国際セーフコミュニティ
認証センター センター長

デイル ハンソン

横浜市栄区長 小山内いづ美様及び栄区の皆さま

319番目のセーフコミュニティ国際ネットワークのメンバーとしての再認証おめでとうございます。今、6秒ごとに世界のどこかで、突然に、残念なことにけがによって命を失っている人がいます。その一つひとつの死が、残された家族、友人の人生とコミュニティに「穴」を残します。また、けがによって長期間あるいは生涯にわたって心身の障害を負う方がいます。私たちは、自分たちが住むまちにおいて、このような不要な苦しみや損失を受け入れることはできませんし、受け入れるべきではありません。

今日は、皆さまのコミュニティがこの8年間のご尽力によってなし得たことを誇りに思い、祝っていただく日です。この年月を通して、栄区のセーフコミュニティ活動を包括的で成熟した取組に育てあげられました。皆さまの地域の安全向上と外傷予防に対する思いとその取組の成果は、今日、セーフコミュニティの仲間同士によって公式に認められ、称賛されています。皆さまは、地域における安全向上の専門家であることが証明されたのです。皆さまは、仲間や関係者の方たちと栄区や横浜市という地域の安全に、共に取り組むなかで、横浜市や神奈川県、そして日本国が効果的な取組を実践するために必要とする知識と専門性、そして住民の力(住民力)を有していることを忘れてください。それはまた、皆さまにとっても、栄区の取組がより成功するために必要な政策やインフラの変化を市や県や国とともに提供する機会となります。

皆さま方の今日のセーフコミュニティとしての新たな決意を嬉しく思っています。認証されたセーフコミュニティは、その足跡を他のまちや地域がたどり、学ぶことができるモデルとなります。私たちは、皆さまが引き続きネットワークへ貢献くださることを期待しています。皆さまが近隣そして世界のコミュニティと学んだことを共有してくださることを期待しています。

1989年に私たちの取組が始まって以来、活動は一国ずつ広がりを見せ、現在では、国境を越えて何千万という人が私たちの世界をより安全な生活の場、勤労の場、楽しむ場になりたいというビジョンに賛同しています。皆さま方のご支援により、さらにこの取組は良いものになります。一つひとつの命が救われ、一人ひとりがけがや暴力から助けられることが大切なのです。それによって、私たちの住むまちから、友人、そして家族の「穴(失う命)」が減るのです。

2018年10月6日

Dale Hanson

セーフコミュニティとは…

日常生活を送る中では、交通事故や犯罪、転倒・転落など、時には命の危機につながるような事故やけがが誰にでも起こりえます。

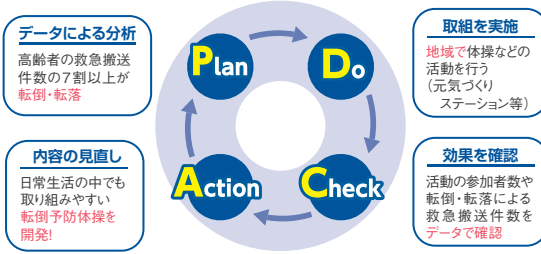
「セーフコミュニティ」は、そういった事故やけがを予防するために、データを使って原因を究明し、地域や関係機関、行政が一体となって取り組む活動のことをいいます。この活動は、WHO(世界保健機関)も推奨している、国際的な認証制度です。認証は5年ごととなっています。

栄区は、2013年10月5日、日本で7番目に認証を取得しました。

PDCAサイクルを使って、取組を改善しています!

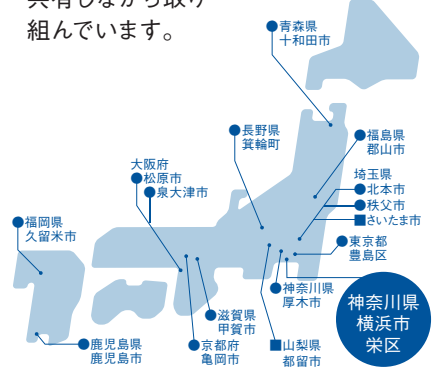
「セーフコミュニティ」の活動では、PDCA サイクルを使って、取組の効果を確認しながら改善を図っています。

高齢者安全対策分科会の活動例



日本中に仲間がいます

「セーフコミュニティ」の認証都市は14都市(●)、認証取得に向けて活動中の都市が2都市(■)あり、情報を共有しながら取り組んでいます。



栄区では、8つのテーマごとに分科会を設け、活動に取り組んでいます。

子どもを事故やけがから守るために
こども安全対策分科会

小学校内で起きた事故のうち4割以上は、大人が目が行き届かない「休憩時間」に発生しています。分科会では、子どもが自ら危険を予知して避ける力を育てるために、「KYT(危険予知トレーニング)」の実施を推進しています。子ども会を中心とした活動が、今では放課後を過ごす施設等へも広がりをみせています。その他にも、「養育者への啓発」や「地域住民による見守り」等に取り組んでいます。



良い取組も、まずは参加してもらうことが重要。KYTは、「楽しみながら安全について学べる」取組です。現地審査では、他都市の方からも「取り入れてみたい」というコメントをいただきました。

安全に運動競技を楽しめるように
スポーツ安全対策分科会

運動競技中の事故やけがの原因である「準備運動不足」と「日頃の運動不足」を解消するために、分科会では準備運動の大切さやその方法についての講習会を行ったり、毎日の生活に取り入れやすい「ウォーキング」を推進しています。ウォーキングを行うことは、ロコモティブシンドロームや体力低下の予防につながる事が研究により示されています。その他にも「区民がスポーツをする機会の創出」等に取り組んでいます。



スポーツ分野においても安全・安心は基本!セーフコミュニティの活動を知れば、子どもから高齢者までけががなくスポーツを続けられると思います。今後は、スポーツ安全分野のデータに基づいた新たな予防対策についても検討していきたいです。

高齢者の安全を守るために
高齢者安全対策分科会

栄区の救急搬送件数のうち、5割以上は高齢者であり、そのうち75%以上が「転倒・転落」によるものです。分科会では、高齢者が日常的に行うことのできる転倒予防体操を普及し、転倒・転落の減少を目指しています。また、冬場の溺死・溺水事故の救急搬送件数が多いことから、ヒートショック対策にも取り組んでいます。



初めての認証の時から関わっています。健康寿命は、努力によって延ばせるものと感じています。個人ですぐに実行できる取組も多いので、高齢者が自分の健康状態を認識し、取組につなげることで、栄区の健康寿命が1歳でも延びれば良いと考えています。

子どもの健全育成を支えたい
児童虐待予防対策分科会

少子化の進行や地域社会とのつながりの希薄化等により、子育てに自信をもてず、不安を感じている母親が多く存在しています。分科会では、「さかえっ子の笑顔ひろげ隊」として、子どもの笑顔があふれる栄区を目指し、子育て世帯を温かく見守る地域づくりのための啓発活動や地域での見守り活動、子育て中の親に対して地域の子育て情報の提供や相談先の周知を行っています。



地域のサロンや育児教室で、最初は緊張していたお母さんにも友達ができ、「この場所があって良かった」という声を聞いた時は本当に嬉しく思います。父子手帳交付をはじめとした子育てがしやすいような取組を、区民の方にもっともっと知って欲しいです。(宮崎良子 座長)

認証を取得するためには？

認証を取得するためには、国際セーフコミュニティ認証センターが定める7つの指標を満たしていることを書類審査と現地審査で示す必要があります。

7つの指標

- ① 分野の垣根を超えた協働を基盤とした推進組織を設置する
- ② 全ての性別、年齢、環境、状況をカバーする長期プログラムを継続的に実施する
- ③ ハイリスクの集団・環境および弱者を対象としたプログラムを実施する
- ④ 根拠に基づいた取組を実施する
- ⑤ 外傷が発生する頻度とその原因を記録するプログラムを実施する
- ⑥ プログラムの内容・実施行程・影響をアセスメントするための評価基準を設定する
- ⑦ 国内外のセーフコミュニティネットワークへ継続的に参加する

セーフコミュニティの特徴のひとつ！ 傷害サーベイランス分科会

「サーベイランス」とは、英語で「監視」や「見張り」を意味する言葉です。セーフコミュニティでは、それぞれの取組を常にチェック・評価をし続けることで、より良いものへ改善していくことが求められています。栄区の傷害サーベイランス分科会は、学識経験者、警察、消防の方等から構成され、データの収集・分析や、取組の評価等を行っています。



田高悦子
座長

この度は、再認証おめでとうございます。栄区の皆さま方のご尽力の賜物と存じます。

初めての認証当時から関わらせていただいておりますが、あらゆるデータを取扱い、分析結果から具体的な取組にまでつなげるには多くのご苦労があったことと思います。傷害サーベイランス分科会には、あらゆる専門分野の学識経験者がいます。皆さまの取組がより効率的で実効性のあるものになるよう、引き続き一緒に考えていきましょう！

誰もが交通事故から身を守るように 交通安全対策分科会

栄区の外的要因による救急搬送件数のうち、3割は交通事故によるものです。分科会では、子どもの交通事故の中で特に多い自転車乗車時の事故について、重大なけがから守るためのヘルメット着用啓発や、登下校時の見守り、スクールゾーン対策協議会による危険箇所の点検と改善等を推進しています。その他にも、「高齢者交通安全教室」や各種キャンペーン等に取り組んでいます。



はまっ子安全教室



分科会の皆さま

危険な自転車運転をしている人に注意しても聞いてもらえないことはありますが、交通安全教室での指導を通して、子どもたちと交流できることはやりがいを感じます。(森克己 座長)

災害から身を守るために 災害安全対策分科会

横浜市は、今後30年以内に震度6弱以上の大地震が発生する確率が82%とされています。いつ起きるか分からない大地震に備え、栄区に20か所ある地域防災拠点が、避難所・情報拠点・備蓄拠点として機能するよう、実践的な訓練を推進しています。また、家具転倒防止器具の取り付けや食料の備蓄等、各家庭での自助の取組の啓発も進めています。



地域防災拠点訓練



毛利勝男
委員

各家庭でも防災意識を持ち、家具の転倒防止や備蓄等について家族間で話し合いをすることでよいでしょう。地域で行われている防災訓練や地域防災拠点訓練には積極的に参加して、一緒にセーフコミュニティの取組を推進しましょう！

支え合おう ところといのち 自殺予防対策分科会

横浜市で1年間に自殺で亡くなった方は550人(2016年横浜市人口動態統計)。自殺に至る背景には健康、生活・経済、家庭など様々な要因があるといわれています。分科会では悩みを抱える人への支援や、正しい知識の啓発について取り組んでいるほか、自殺のリスクが高まる要因を理解し、そのサインに気づくなど、必要な支援につなげる「ハートフルサポーター(ゲートキーパー)」の育成をしています。



ハートフルサポーター養成研修



小田原俊成
座長

日頃の活動の積み上げが、安全・安心なまちづくりにつながると考えています。困ったことがあったら、ひとりで抱え込まずに相談し、身近に様子がおかしいと感じる方がいらしたら、声をかけてください。大切な心といのちのために、できることから始めましょう。

振り込め詐欺の被害にあわないように 防犯対策分科会

栄区では近年、振り込め詐欺の被害が急増しており、2017年は55件、1億9千万円となっています。金銭的なダメージのほか、心の傷を受けたことによる自死等の二次被害を未然に防ぐため、分科会では主な被害者層である高齢者を対象とした啓発活動や、金融機関での声掛けなどを行っています。その他にも、「防犯パトロール」や防犯灯の日常の見守り活動等に取り組んでいます。



出前講座



岡田忠男
委員

セーフコミュニティを通して、いろいろな団体と協力しながら防犯活動を進められることができとても良かったです。皆さまの協力が、より安全で安心なまちになることにつながると思いますので、今後ともご協力をお願いします。